

2025年度日本マネジメント学会 第91回全国研究大会に参加しました！

こんにちは！2024年度春期入学生の松川千夏です。私はこのたび2025年6月6日（金）～8日（土）に東京都町田市にある和光大学で開催された「2025年度日本マネジメント学会 第91回全国研究大会」に、関東部会からの推薦を受けて参加し、研究発表を行いましたので、報告します。

かみ砕く力をどう測る？ — 「咀嚼能率スコア法」とは

発表のテーマは、「社会保障制度に基づく医療価格決定の問題点」。

本研究では、発表テーマを考察するにあたり、2018年に歯科病名として保険収載された「口腔機能低下症」に着目しました。これは、「噛み切る」「かみ砕く」「飲み込む」などの口腔機能が複合的に低下する症状で、7つの検査項目のうち3項目以上に該当すれば診断され、保険算定が可能になります（年齢などの条件を満たす必要あり）。

このうち「かみ砕く」機能を評価する方法として、「咀嚼能率スコア法」を実施しました。この検査では、専用のグミゼリーを自由に30回噛み、咬断片の大きさを視覚資料と照合して10段階で評価します。特別な機器や技術を要さない簡便な検査として、先行研究でも評価者の経験や習熟度に左右されにくいとされています。

診療報酬の公平性を支える「客観的評価」の必要性

発今回の実施では、学生と教員3名が同一対象に対して評価を行いました。評価の一致は見られず、個々の感覚に基づく判断の差が浮き彫りとなりました。この結果は、目視による評価が「主観」に大きく依存するため、診断や診療報酬の算定に誤差が生じる可能性を示唆するものです。

わが国の診療報酬制度は、国民皆保険制度のもとで成り立っており、多様なステークホルダーが納得する制度設計が求められます。その意味でも、個人の主観に左右されない「客観的な評価手法」の導入が急務であると考えます。たとえば、AIによる画像診断などの技術の活用が、精度の高い評価につながる可能性があると考えられます。

現場実践と制度をつなぐまなざし

今回の学会発表は、実践と制度を結びつけて考える契機となりました。今後は、診療報酬制度が「定められた報酬ポイント」に基づいて資源を配分する仕組みが、医療現場や医療経営にどのような影響を与えているのかを、より広い視点で検討していきたいと考えています。



この記事を書いた人

松川 千夏 さん（2024年度春期入学）

博士（歯学）。歯科衛生士。専門職としての実務経験をバックグラウンドに、大学教員として後進の育成にも携わる。福祉医療マネジメント研究科へは、大学教員としての専門性向上を目指して2024年度春期に入学。組織論や医療マネジメントの学びを現場に活かしながら、将来は教育・研究活動をさらに深めることを目指している。